

令和元年度

研究開発学校研究協議会

「市民性を高めるリーガルマインド教育」

研究の成果と課題

兵庫県立須磨東高等学校



京丹後

豊岡

鳥取

舞鶴

長浜

京都府

滋賀県

兵庫縣

京都

姫路

兵庫県立須磨
東高等学校

堺

大阪府

奈良縣

淡路島

E24

Google



須磨東高校は…

昭和53年創立 全日制・普通科

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
239	6	276	7	272	7	787	20

全学年にリーガルマインド類型生徒

貴方の未来の
滑走路

研究の目的

「市民性としての
リーガルマインド」

貴方の未来の
滑走路

「市民性」の定義

民主主義社会の構成員として、勤労観・職業観の涵養を含めたキャリア意識と、社会を構成する他者との関係性を維持するための規範意識を持ち、社会の様々な課題について当事者意識を持って、能動的に参画し、行動できること。

本校の捉えるリーガルマインドとは

「法的思考力・判断力」をより広義に捉え…

- ・物事を多面的に捉える力
- ・公正に判断する力
- ・法を活かして社会の調和を
保ちながら暮らす力

育成すべき資質・能力

① 社会人基礎力

② キャリア形成力

③ 課題解決力

育成すべき資質・能力

① 社会人基礎力

② キャリア形成力

③ 課題解決力

+

④ 統合的構想力

貴方の未来の
滑走路

④ 統合的構想力

「自ら」行うことができる。

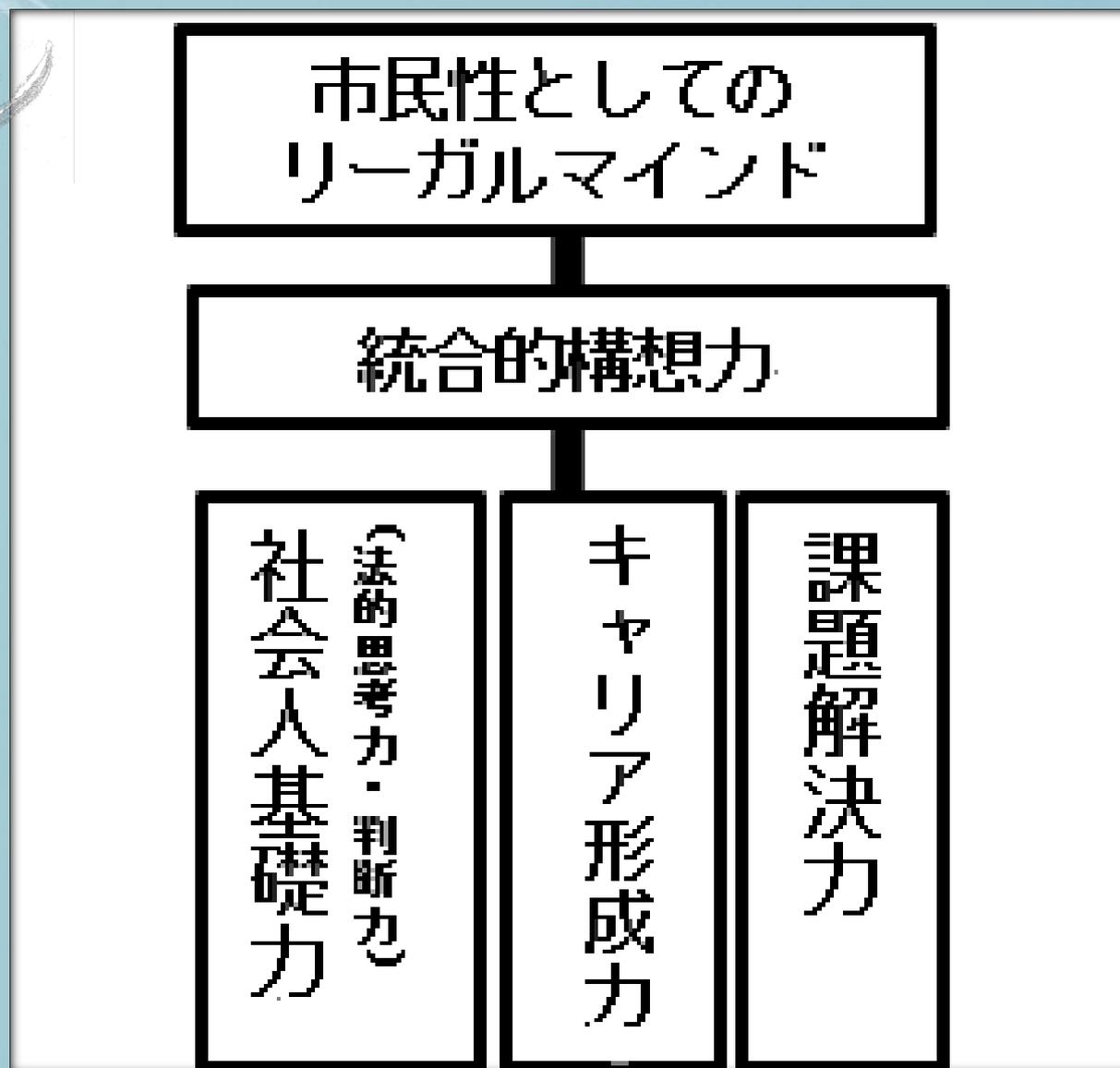


①社会人基礎力 ②キャリア形成力

③課題解決力

「市民性としてのリーガルマインド」 育成すべき資質・能力とその構造

貴方の未来の
滑走路



実施報告書

図1「市民性としてのリーガルマインド」のための育成すべき資質・能力とその構造

「メディア研究」の新設

「市民的教養・知識理解」について

「見識ある市民になるための「市民性」を養う上で「メディア学習」は欠かせない。」

橋本康弘・二丹田雄一著「社会化における情報社会の理解をめざす内容

編成の論理—『Media Matters(Citizenship in Focus)』を手がかりにして—」

『福井大学教育地域科学部紀要(社会科学)』Vol.4 2013 pp.211-231



「市民性のリーガルマインド」 のためのカリキュラム開発

1年生(全員履修)

- 「リーガルマインド基礎」
1時間 (総合的な探究の時間)
- 「メディア研究」
1時間 (公民科学学校設定科目)

「市民性のリーガルマインド」 のためのカリキュラム開発

2・3年生(類型生徒)

2年生(類型生徒)

「リーガルマインドⅠ」 1時間

(公民科学学校設定科目)

3年生(類型生徒)

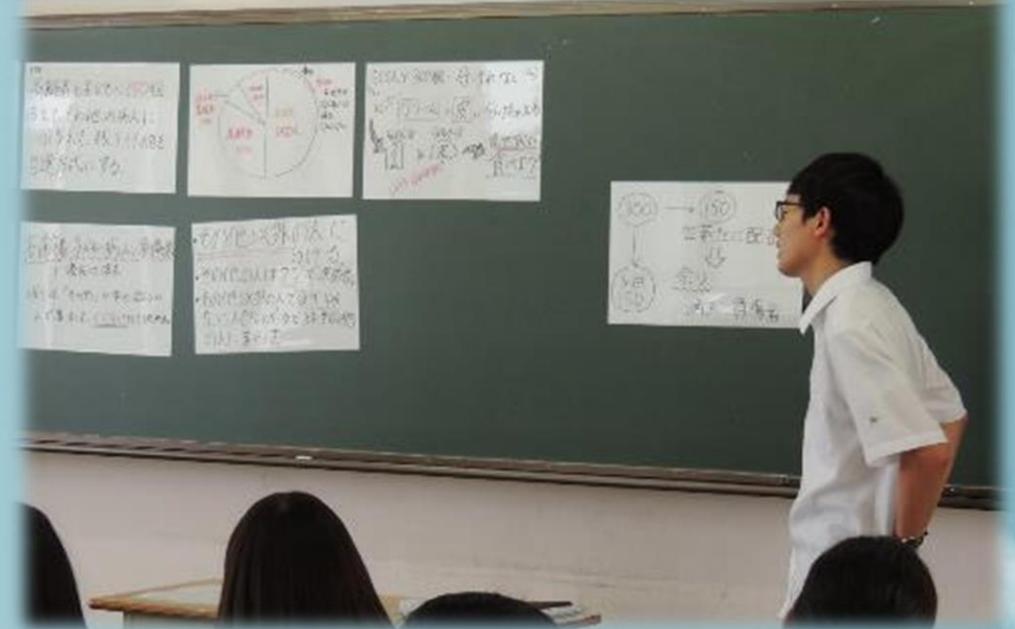
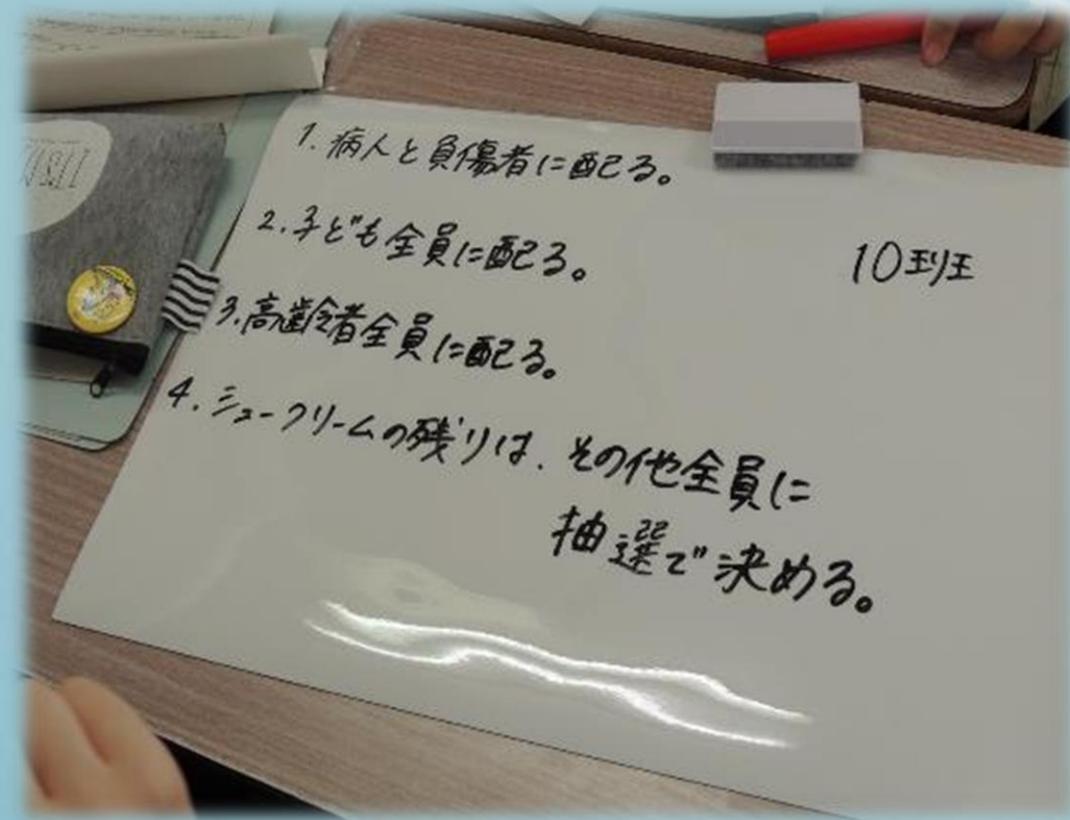
「リーガルマインドⅡ」 1時間

(公民科学学校設定科目)

「リーガルマインド基礎」授業実践例

貴方の未来の
滑走路

授業実践 「シュークリーム」の分配



「リーガルマインド基礎」授業実践例

授業実践
「ギターが壊れた！」



「メディア研究」授業実践例

貴方の未来の
滑走路



授業実践
「税から地方自治を
考える」



「メディア研究」授業実践例

貴方の未来の
滑走路

授業実践

「メディアの送り手と受け手」



授業実践 「街中で見かけた あれ？」



①まずは、現場をよく観察しよう。

②次にいろいろな人の立場から見てみよう。



相手の立場を把握すれば、押しつけがましくくない解決策を見つけられる。

「リーガルマインド I」授業実践例

授業実践
「模擬裁判」



貴方の未来の
滑走路

「リーガルマインドⅠ」授業実践例

授業実践 「模擬裁判」



「リーガルマインドⅡ」卒業論文タイトルと 関連する希望進路

卒業論文タイトル	関連する希望進路
待機児童を減らすために	幼児教育
静脈弁の必要性	看護
児童虐待について親権者や社会体制を見つめ直す	法学(司法書士)
高齢者のお出かけの大切さと高齢者バリアフリー	理学療法
待機児童問題と今後の展開	幼児教育
ベビーサインで、小さな子どもたちを救う	看護
ネット上の著作権侵害における原因と解決策	プロダクトインテリア

実践結果分析【1 生徒への効果】

調査対象：39回生（2018年度卒業）から41回生（2019年度2年生）

調査時期：それぞれの学年末

調査内容：「社会人基礎力」「キャリア形成力」「課題解決力」の育成について

数値：「あてはまる」、「割とあてはまる」と回答した生徒の割合の合計

回生	学年	社会人基礎力				キャリア形成力		課題解決力		
		自分の役割を果たしつつ他者と協力する態度	公正、公平に価値判断する力、物事を多面的に捉える力	様々な情報を取捨・選択する力	法を活かして社会の調和を保ちながら暮らす態度	主体的に社会に参画する態度	「働くこと」の意義を理解する力	社会の様々な課題を抽出し設定する力	課題解決のために適切な計画を立て、解決策を考察し説明する力	解決したことをまとめて表現する力
41回生	1年生 (280名)	86	84	68	39	31	23	67	68	48
	1年生類型 (28名)	89	71	71	54	47	21	60	67	57
40回生	1年生類型 (29名)	93	83	80	38	42	31	79	76	69
	2年生類型 (29名)	93	82	89	45	38	31	76	83	58
39回生	2年生類型 (29名)	93	86	94	57	64	57	87	90	87
	3年生類型 (29名)	96	96	89	58	55	31	86	89	65

実践結果分析【2 卒業生アンケート】

調査対象:リーガルマインド類型卒業生1期生25名、2期生30名[計55名]

調査時期:2019年7月～8月

調査内容:リーガルマインド類型で学習したことで自分が成長したと思える時はどんな時ですか

2	ある問題に直面したときに、物事を偏った見方をせずに、客観的に考えようと思うとき。
12	いろんな視点から物事を捉えられるようになった。教師から生徒への一方通行の関係で得られるものとは違った、学生同士で話し合いなどをする事で得られるものが多かった。そういった話し合いの場所で積極的に発言などができるようになった時。
15	自分の意見を持ち、かつその意見を早く言いたいと思う時。また、ニュースで見た社会問題などに対し、無意識に解決策はないかと考えていた時。
20	グループワークやフィールドワークをたくさん行ったことで、大学入学後のグループワークやフィールドワークなどに緊張せず、余裕を持って参加できています。人と関わることが更に好きになったこと、積極的にになり、意欲的になれたことが成長したと思えるところ

実践結果分析【3 教員の取り組みの変容】

調査対象：本校教員

調査時期：2019年10月

調査内容：研究開発指定を受けたことでの、自身の取り組みに関する変容

注目すべき教員の変容

授業改善の必要性に気づかされたが、小さな試みでとどまってしまい、まだまだ何もできていない。

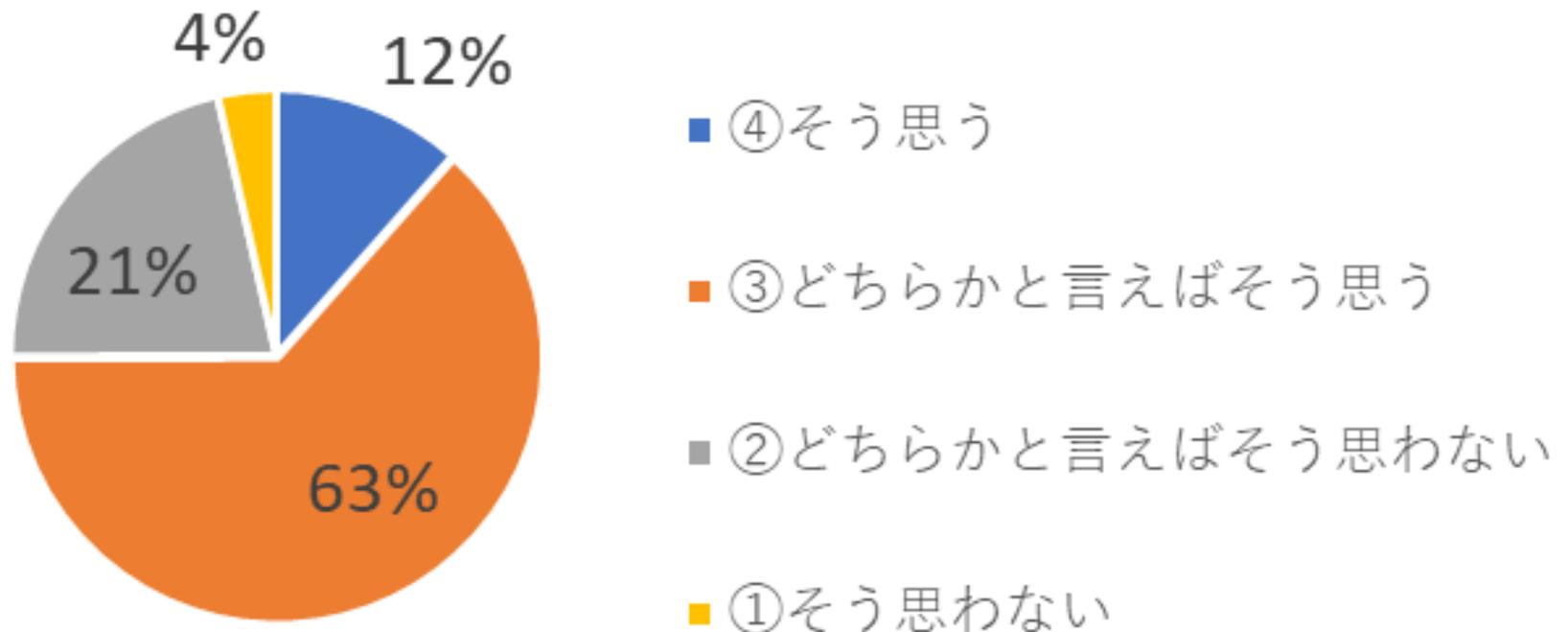
実践結果分析【4 保護者等への効果】

調査対象：本校の保護者

調査時期：2019年11月

調査内容：「市民性としてのリーガルマインド教育」に関する調査

問27 本校が平成28年からの4年間文部科学省
の研究開発指定を受けたことで、
学校全体の改善につながったと思う。



研究実施上の今後の課題

1 「市民性としてのリーガルマインド」のための 資質・能力について

- ・「課題解決」に関わる「社会参画」するための学習とそれにとともなう積極的な発言の機会を増やす
- ・「法に関する学習」の機会を増やす。「キャリア形成力」を育成する取り組みを今以上に行う。
- ・「統合的構想力」についてどのようなカリキュラムにすれば生徒が力をつけたと実感できるのかを検討する。

2 教員間の情報共有について

- ・職員室で気軽にリーガルマインドについて話したり、各自の授業に活用したりすることができるように、研究内容について掲示するとともに、指導案等を閲覧しやすいようにデータの整理を行う。

3 卒業生への検証について

- ・社会に出た時に、成長が実感できるカリキュラムであったか検証する。

4 学校全体として

- ・他教科・科目においても「市民性としてのリーガルマインド」の資質・能力の育成に向けた授業開発をおこなう。
- ・今回の研究を活かして、学校全体のカリキュラム・授業改善をおこなう